

令和4年度
自己点検・評価報告書

鹿児島工業高等専門学校

目 次

自己点検・評価報告の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
I. 各部署の重点項目における自己点検・評価報告・・・・・・・・	2
II. ミッションに基づいた自己点検・評価報告・・・・・・・・	27

令和4年度 自己点検・評価委員会

～本校の教育理念～

未来の技術を創る人を育てる

～本校のミッション～

- I. 創造性豊かで人格が優れた国際的に通用する技術者を養成すること
- II. 開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的価値あるものを創出していくこと
- III. 地域の産業、文化さらには生活を支えていく地域に根差した高専とすること

【概要】

本校では、国立高等専門学校機構の第4期中期計画に基づき年度計画をたて、本校の施策を実行しています。また、当該年度の施策の計画、実行、点検・評価のためにPDCAサイクルを用いており、PDCAの中でも、成果をチェックし、新たな課題を見出し、改善していくために、自己点検・評価委員会および外部評価委員会を開催し、自己点検・評価を行っています。また、令和4年度に外部評価委員会については毎年の開催から各年度の開催を決定し、次回の外部評価委員会は令和5年度の自己点検・評価において実施される予定となっています。令和4年度の自己点検・評価委員会では、各部署からPDCAに関して口頭の報告及び資料の報告を行い、委員長（校長）および他の委員からのコメント、質疑応答を行った。令和4年度は以下に示す20の部署からの報告がありました。

(1)教務主事 (2)総務企画主事 (3)学生主事 (4)寮務主事 (5)研究主事・専攻科長 (6)国際交流センター長 (7)地域共同テクノセンター長 (8)グローバル・アクティブラーニングセンター長 (9)情報セキュリティ推進責任者 (10)学生何でも相談室長 (11)特定戦略タスクフォース担当 (12)機械工学科長 (13)電気電子工学科長 (14)電子制御工学科長 (15)情報工学科長 (16)都市環境デザイン工学科長 (17)一般教育科長 (18)総務課長 (19)学生課長 (20)技術長

自己点検・評価委員会において行った議論については、各部署において検討され、令和5年度のPDCAに反映されることになります。

令和4年度は、鹿児島高専が掲げる Well-being、Positive Education などの議論の結実の一つである1年生混合クラスおよび新カリキュラムが始まりました。混合クラスの成果の一つとして、1年生の成績の向上が見られています。混合クラスについては、学生（2年生）へのアンケートを令和5年度に実施し、改善につなげていく予定としています。また、令和4年度は高専学会、JSTS2022を開催しました。コロナ禍の中、本校として2つの大きなイベントを開催でき、多くの学生が参加できたことを喜ばしく思っています。令和5年度もJSTS2023を開催することが決まっており、多くの学生が参加して貴重な経験を積むことを期待しています。本校が掲げる Well-being、Positive Education については、今後も継続して議論を続けていき、本校の特色、魅力となるように教育に反映していく予定としています。令和5年度は、新カリキュラムのリベラルアーツⅠ（2年生）がスタートします。急速に社会が変化していく中で、深く考える力、多方面からの見方を身に着けることで、『社会の在り方』を考えることができる技術者に育っていくことを期待しています。鹿児島高専は、今後も変化を続け、学生、教職員、保護者、企業、地域等さまざまなステークホルダーに対しての責任を果たすと共に魅力向上を図っていきたいと考えています。

I . 各部署の重点項目における 自己点検・評価報告

令和4年度 自己点検・評価委員会

報告内容

1. 教務主事 自己点検・評価報告
2. 総務企画主事 自己点検・評価報告
3. 学生主事 自己点検・評価報告
4. 寮務主事 自己点検・評価報告
5. 研究主事・専攻科長
自己点検・評価報告
6. 国際交流センター長
自己点検・評価報告
7. 地域共同テクノセンター長
自己点検・評価報告
8. グローバル・アクティブラーニングセンター長
／ 9. 情報セキュリティ推進責任者
自己点検・評価報告
10. 学生何でも相談室長
自己点検・評価報告
11. 特定戦略タスクフォース担当
自己点検・評価報告
12. 機械工学科長 自己点検・評価報告
13. 電気電子工学科長
自己点検・評価報告
14. 電子制御工学科長
自己点検・評価報告
15. 情報工学科長 自己点検・評価報告
16. 都市環境デザイン工学科長
自己点検・評価報告
17. 一般教育科長 自己点検・評価報告
18. 総務課長 自己点検・評価報告
19. 学生課長 自己点検・評価報告
20. 技術長 自己点検・評価報告
21. 校長による自己点検・評価総括

概 要

本校では、国立高等専門学校機構の第4期中期計画をベースに、年度計画及び具体的なPlanを策定し、それを実現すべく、Do、Check、Actionを行っている。また、その活動状況について自己点検・評価委員会及び外部評価委員会を開催し、自己点検・評価を行っている。

令和4年度は、総務企画委員会において、外部評価委員会の隔年の開催を検討し、運営会議の審議の上、決定した。また、令和3年度の外部評価委員会からの助言に基づき、自己点検・評価報告書の詳細版、簡易版という名称について検討を行い、自己点検・評価報告書としてまとめ、

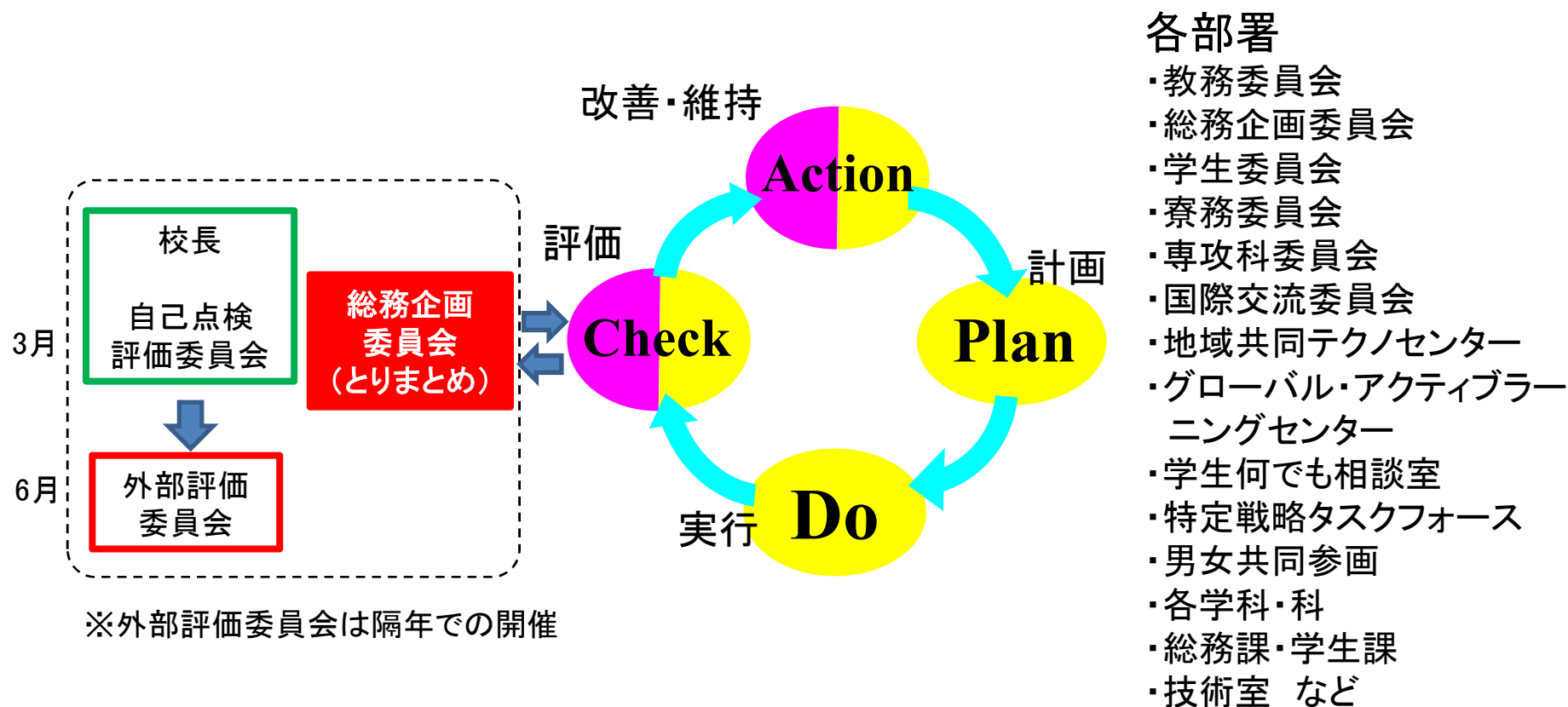
I．各部署の重点項目における自己点検・評価報告

II．ミッションに基づいた自己点検・評価報告

と2部に分けた編纂とした。

令和2年度からの新たなPDCAサイクルによる自己点検・評価については機能的に行われていると考えているため、令和4年度については、上記以外の自己点検・評価に関する改善について特筆すべき事項はない。

自己点検・評価のPDCAサイクル



目標に対し、PDCAを回し、客観的なデータを基に
自己点検・評価を行う体制

自己評価基準

達成度と自己評価	評価基準
S: 計画以上に進行している	「目標以上の成果が得られている」、または「目標以上の成果が得られる形で進んでいる」
A: 計画通りに進行している	「目標通り100%の成果が得られている(ほぼ目標通りの成果が得られている形を含む)」、または「目標通り100%の成果が得られる形で進んでいる」
B: 計画からやや遅れている	「目標には届かなかったが、概ね70%以上の成果が得られている」、または「目標には届かないが、概ね70%以上の成果が得られる形で進んでいる」
C: 計画から遅れている	「目標の50%以上70%未満の成果にとどまっている」、または「目標の50%以上70%未満の成果となる形で進んでいる」
D: 計画から大幅に遅れている	「目標の50%未満の成果にとどまっている」、または「目標の50%未満の成果となる形で進んでいる」

1. 教務主事 自己点検・評価報告

教務主事の所管する事項		自己評価
(1) 新1年生混合学級の円滑なスタート (2) 留年・退学に関する対策 (3) 志願者の確保(特に女子学生の確保)		A B A
Plan	Do	
(1) 令和4年度から始まる、1年生混合学級について、スムーズに導入できるようにする。 (2) 各学科で、学科ごとの目標値を設定する。また、再評価の締め切りを早めに設定し、早期の再評価実施を促す。 (3) コロナ禍で、活動に制限のかかる中での、効果的な入試広報を推進する。	(1) 1年生担任については、教務主事が適任者を指名し、合わせて一般教育科と専門学科の連携を図る。 (2) 例年よりも1ヶ月早く締め切りを設定し、前期の取りこぼしについては、早い時期での再評価・再試験を促した。 (3) 令和4年度もHP上でバーチャルオープンキャンパスを公開。また、PTを中心とした学校説明会への参加。	
Check	Action	
(1) 令和4年度の1年生の担任に、初めての混合学級でのクラス運営で、困ったことや改善点などをアンケート調査し、問題点を洗い出す。 (2) 以前よりも、再評価などを積極的に実施する教員が増えたが、コロナ等で再評価の実施にも影響がでている。 (3) コロナの影響で、一日体験入学は中止となり、令和4年10月の学校説明会の開催のみとなった。またバーチャルオープンキャンパスの視聴数が、思ったほど伸びていない。ただ、志願者は増加したことと、女子学生が昨年度よりやや減少したが一定数確保できた。	(1) 令和5年度の1年担任に、アンケート結果を引き継ぎ、令和4年度に出てきた問題点を、早い時期に解決する。 (2) 成績評価の多様性を推進し、試験一辺倒の成績評価のあり方を見直す必要がある。 (3) バーチャルオープンキャンパスの見直しと、知ってもらうための工夫をする。令和5年度は、コロナ禍の影響が少なくなるため、積極的にイベントを開催する必要がある。	

2. 総務企画主事 自己点検・評価報告

総務企画主事の所管する事項	自己評価
(1) キャリア支援活動を充実化し、より良いキャリア支援を行う (2) FD・SD活動を実施する (3) 広報センターの活動の充実を図る	S A A
Plan	Do
(1) キャリア支援室としてキャリア支援の標準化、充実化を図り、本校のキャリア支援の在り方を検討する。 (2) 鹿児島高専FD・SDフォーラム、鹿児島高専FDレクチャーシリーズ、公開授業、授業アンケート等のFD・SD活動を実施する。 (3) 広報センター活動の充実を図る。	(1) キャリア支援計画と実績を取りまとめ、学内に周知した。また、新たに先輩講話、女子学生向けセミナー、就職・進学者向けセミナーを複数計画し、実施した。 (2) 鹿児島高専FD・SDフォーラム、鹿児島高専FDレクチャーシリーズ、公開授業、授業アンケート、授業力アップアクティビティのFD・SD活動を計画し、実施した。 (3) 鹿児島高専の広報の充実化のため新たな活動を実施した。
Check	Action
(1) キャリア支援の計画と実績を把握し、新たなキャリア支援プログラムを複数回実施することで、当初の想定以上にキャリア支援が充実化できた。 (2) 鹿児島高専FD・SDフォーラムを8回、鹿児島高専FDレクチャーシリーズを5回、公開授業(前期、後期)、授業アンケート(前期・後期)、授業力アップアクティビティ(教務主事担当)を実施した。FD・SDフォーラムでは事務主催のイベントを行った。 (3) 新たな広報センターの活動として、鹿児島市市電の窓吊り広告を2回出した。高専PRビデオを制作した。令和3年度から高専だよりを学生の活躍を主体とした編纂を行った。	(1) 本校のキャリア支援実施状況を把握・整理し、入学時から卒業・卒業後までのキャリア支援の在り方を検討していく。 (2) 鹿児島高専FD・SDフォーラムでは事務主催のイベントを開催した、公開授業は通年で開催した等の取り組みがあった。令和5年度も同様に充実したFD・SD活動を計画・実行する。 (3) 鹿児島市市電の窓吊り広告、高専PRビデオの制作等を令和5年度も計画・実行する。

3. 学生主事 自己点検・評価報告

学生主事の所管する事項	自己評価
(1) 学生が意欲的に参加できる学校行事の実現 (2) 学生会の見える化 (3) 地域から愛される学校作り	A A B
Plan	Do
(1) 学生がこれまで以上に意欲的に参加できる学校行事の実施 (2) 学生会の活動を全面的にアピールする (3) 学校の美化活動と最も身近な地域貢献	(1) 文化祭では、部活動が企画・立案する露店を募集。体育祭では櫓絵の貼り付け方法を変更。クラスマッチは、競技の見直し。 (2) 学生会活動の充実を図り、定期的な挨拶運動・放送活動（毎月の保健目標・部活動の活躍紹介・いじめ防止週間）。 (3) 学校美化の一環として校内の花壇の管理とともに、最も身近な地域貢献の一環として正門前の真孝公民館花壇の整備にも取り組む。
Check	Action
(1) 文化祭・体育祭ともに制限付きではあるが、保護者来校を認め、文化祭は令和3年度よりも多くの部活動から露店希望があり非常に盛り上がった。体育祭ではこれまでの懸案事項でもあった櫓絵の取り付け方法を変更した。 (2) 学生新聞を3回発行でき、学内へPRできた。挨拶運動は天気にも左右された時もあった。校内放送では、毎月の保健目標や部活動の活躍紹介のみならず、いじめ防止週間での啓発活動もできた。 (3) 正門前の真孝公民館花壇の整備を地域住民と一緒に実施した。天候にも左右されたり、日程が試験期間と重なったりと、思う存分交流を図れなかった。	(1) 令和4年度の反省を活かし、学生会や実行委員会メンバーの意見を尊重し、学生が輝ける学校行事を企画・立案していきたい。特に、体育祭やクラスマッチでの女子競技の見直しを図りたい。 (2) 学生会メンバーの自覚をより高め、自主性を尊重した運営を心掛けたい。全体での定例会に加えて、各局の打ち合わせ等も増やしていきたい。風紀局の活躍。 (3) 真孝公民館花壇整備における地域住民との交流を図る中で、本校の学生の良さにも触れてもらいたい。そのためにも、公民館行事計画段階から情報交換を行い、更には寮生会とも連携し取り組んでいきたい。

4. 寮務主事 自己点検・評価報告

寮務主事の所管する事項	自己評価
(1) 新型コロナウイルス感染症への対応 (2) 各種サービス・手続きの改善	A A
Plan (1) 新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策の修正を図り、寮内における感染拡大を抑制する。 (2) 寮生に提供されている古い手法によるサービスや手続きを改善し、利便性を高める。	Do (1) これまでの対策に加え、食堂のテーブルにアクリル板を設置し、マスク未着用時の飛沫防止を図った。また、隔離部屋専用を1棟準備し、感染者及び濃厚接触者の迅速かつ確実な隔離を実施。 (2) ムードルに学生寮コースを設定し、全体連絡や一部手続きに活用。また、学生の来訪頻度の高い学寮事務棟玄関ホールにサイネージを設置し、連絡体制の充実を図った。
Check (1) 前学期は感染拡大により隔離部屋不足となり2度の閉寮を余儀なくされたが、学寮内での感染の広がり多くはなかった。後学期は濃厚接触者に対して帰省を強く促す方針を取り入れたことも相まって、閉寮に至るような感染拡大はなかった。 (2) 全体連絡には従来の掲示板も並行して使用していることもあり、ムードルのアクセスは半数程度にとどまったが、事務室への問い合わせは減少傾向にある。	Action (1) 濃厚接触者の扱いなど5類移行に伴う施策の変化への対応。 (2) ムードルの利用促進に関する年度当初の啓発活動の実施。各棟へのサイネージの追加設置。更には、点呼や外出、摂食状況など学寮運営を支援するシステムの導入を検討し、寮生、管理者側の利便性を更に高める。

5. 研究主事・専攻科長 自己点検・評価報告

研究主事・専攻科長の所管する事項	自己評価
(1) 科研費採択率の向上 (2) 特例適用教員数の向上	A A
Plan (1) 科学研究費助成事業の応募及び採択率を向上させるために、プロジェクト・チームを設置する。更に、第5ブロック科研費獲得オンライントレーニング等の積極的な活用を促す。 (2) 特例教員数の向上について、申請時にヒアリングを行い、書類の記入方法(業績の見せ方など)について指導する。また、筆頭著者、責任著者としての論文執筆を増やすよう指導を行う。	Do (1) 採択率を向上させるためにプロジェクト・チームによる査読を行い、教職員に対して適切な指導・助言等の支援を行った。若手教員に対して第5ブロック科研費獲得オンライントレーニング等の受講を促した。 (2) 特例適用教員の申請時に、研究主事及び研究主事補でヒアリングを実施し、申請者たちの意思を尊重しながら、申請書類の記入方法について、4名にアドバイス・指導を行った。また、特例適用教員未承認の教員3名に対し、研究力強化プログラムへの参加を促した。
Check (1) 令和4年度科研費の採択件数は5件であった。令和5年度科研費への申請件数は66件で、前年度より9件増加した。また、第5ブロック科研費獲得オンライントレーニングに2名の教員が参加した。 (2) 申請した6名中、5名が承認された。そのうち、新規2名が研究力強化プログラムへ参加した教員であった。	Action (1) 令和5年度以降もチームによる査読を行い、申請書をブラッシュアップし採択率の向上を目指す。更に、第5ブロック科研費獲得オンライントレーニング及び国立高専科研費申請書査読者ネットワークによる科研費研究計画調書の査読システムの積極的な活用を促す。 (2) 令和5年度以降も継続的にヒアリングを行っていく。また、未承認の若手教員に対し、研究力強化プログラムを案内する。令和5年度以降は、未承認の若手教員の指導実績を積むため、積極的に指導補助教員として登録することを呼びかける。

6. 国際交流センター長 自己点検・評価報告

国際交流センター長の所管する事項	自己評価
(1) グローバルマインド、異文化理解力の育成	A
(2) JSTS2022の開催	A
(3) 英語力向上	A

Plan	Do
(1) 海外協定校との対面式交流プログラムの実施(新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底して) (2) 国際セミナー(英語でのアイデアソン)の開催(高専生だけでなく国内外の大学生が参加) (3) ToEIC対策講座および試験の実施	(1) NTI高校(スウェーデン)との交流プログラム(令和5年1月16日から24日)を実施。9人のNTI高校生が来校。 (2) JSTS2022(高専機構主催の国際セミナー)を鹿児島高専が主担当となって開催(2022年9月12日から16日)。ハイブリッド形式のセミナー。 (3) ToEIC講座(オンライン)の実施とe-learning教材の活用。ToEIC-Bridge(1～3年)、ToEIC-IP(4年)の実施。
Check	Action
(1) NTI高校との交流、参加者全員が満足と回答。グローバルな活動への学習意欲向上にも効果的。 (2) JSTS2022参加人数は高専生24人、大学生9人(国内)、29人(国外)。94%の参加者が満足と回答。 (3) ToEIC-Bridge、ToEIC-IP、いずれもプログラム参加者の平均点は学年平均よりも高い。 例)3年生:学年平均290点、プログラム参加者:405点	(1) NTI高校以外の協定校とも、対面式(派遣、受入)交流プログラムを計画、実施する。 (2) JSTS2023を開催する。 (3) 海外研修、語学研修によって英語力向上を図る。ToEIC講座の実施方法(モチベーション維持の工夫)を検討する。

7. 地域共同テクノセンター長 自己点検・評価報告

地域共同テクノセンター長の所管する事項	自己評価
(1) 霧島市、日置市、姶良市との連携	A
(2) キャリア教育における自治体との連携	A
(3) KTC企業による特別講義等を通じたキャリア教育の状況、成果の把握	A

Plan	Do
(1) a. ニューライフカレッジ霧島「隼人学」の開催(霧島市) b. 市主催の行事への参加(日置市) c. 児童向け教育講座の実施(姶良市) (2) 自治体と連携して地方創生講義を実施して、学生へのキャリア教育を行う。 (3) KTC企業と連携し、地域企業特別講義・地域企業研究会を実施し、学生へのキャリア教育を行う。	(1) a. 通年で全10回開催した。 b. 「企業の魅力説明会」、「異業種交流懇話会総会」に参加した。 c. 「AIRAふるさとチャレンジャー」での講座を開講した。 (2) 2年生を対象に令和4年11月16日に霧島市、日置市、姶良市による地方創生講義を実施した。 (3) 3年生対象に令和4年11月2日、1年生対象に令和4年11月30日に「地域企業特別講義」を実施し、令和4年12月7日に3、4年生及び専攻科1年生対象に「地域企業研究会」を行った。
Check	Action
(1) a. 全国でも珍しい取組で、地域の活性化に寄与すると評価されている。 b. 市との連携強化の他に、日置市企業のKTC加入につながった。 c. 姶良市より継続しての実施の希望があった。 (2) 地元OBのアドバイスを聴く場にもなり、学生にとって将来を考える良い機会となった。 (3) 地域企業の技術や鹿児島で働くOBの声を聴き、学生が地域企業の魅力を知る機会となった。	(1) 今後も引き続き各自治体と連携・協力していく。 (2) 今後も事業を継続する。学生が「自治体」に目を向ける機会は少ないため、知見を広げるため、またキャリア教育として必要と判断する。 (3) 学生には「地域企業で働くということ」を知る機会が必要と判断されるため、キャリア教育の一環として今後も継続して実施する。

8. グローバル・アクティブラーニングセンター長 / 9. 情報セキュリティ推進責任者

自己点検・評価報告

グローバル・アクティブラーニングセンター長 / 情報セキュリティ推進責任者の所管する事項	自己評価
(1) キャンパス情報ネットワークシステム－コンテンツフィルタ	A
(2) 情報セキュリティ維持・向上への全教職員への意識啓発	A

Plan	Do
(1) コンテンツフィルタ適用除外申請フロー改善(続) 同じサイトを毎年度申請する必要がある不便、との声に対し、「未分類」を理由としたフィルタリングが継続されないようにする。 (2) 校務連絡会定例報告内容設定: 情報セキュリティを他人事としないため、情報セキュリティ関係の出来事を身近に感じられるように努める。	(1) 年次の許可リストへの登録の際、配信リストの提供元へも分類申請を行うようにした。 (2) 校務連絡会で本校で情報セキュリティ関係事象の対応数を報告し、注意喚起を行うようにした。
Check	Action
(1) 2021年度の申請件数: 約120 2022年度の申請件数: 約50(1月末までの申請数) ※サイトは増える一方のため、同数維持でも効果有り (2) 【口頭報告】	(1) 効果が確認できたので、継続する。コンテンツフィルタの運用は本部からの情報セキュリティ監査においても良好な評価が得られている。 (2) リモート会議や動画視聴型の講習等における「ながら参加」や「ながら視聴」への対策を検討する。

10. 学生何でも相談室長 自己点検・評価報告

学生何でも相談室長の所管する事項	自己評価
(1) いじめ対策研修の実施 (2) 相談室を利用しやすい雰囲気作り (3) カウンセラーとソーシャルワーカーの充実	A A S
Plan	Do
(1) 全学生に対するいじめ防止講演会を実施するとともに、教職員に対するいじめ対策研修を実施する。 (2) 学生が気軽に相談・質問・意見できる環境を整備する。 (3) カウンセラーとソーシャルワーカーを新たに雇用し、相談体制のより一層の充実を図る。	(1) 全学生に対する講演会を令和4年4月29日に、教職員に対するいじめ対策研修会を令和4年12月7日に実施した。 (2) 匿名フォームを運用し、相談等の受付を続けた。相談室前の環境整備を行った。 (3) カウンセラーとソーシャルワーカーの公募を行い、カウンセラー2名、ソーシャルワーカー1名を確保した。
Check	Action
(1) 外部講師に頼るのではなく、自前で講演・研修を行った。研修は高専機構のハラスメント研修と時期が重なり、効果的であった。 (2) 匿名フォームに相談・質問・意見が85件あった。相談室前に電子レンジ等を設置し、学生が近寄りやすい雰囲気作りができた。 (3) 週5日間、ほぼ隙間なくカウンセラーとソーシャルワーカーを配置できた。	(1) 引き続き、講演会、研修会を自前でも実施できるよう、相談室員の自己研修を行う。 (2) 匿名フォームの認知度を維持する。相談室のみならず、厚生会館全体の雰囲気づくりを行う。 (3) カウンセラー、ソーシャルワーカーの積極的利用を、学内(特に担任)に向けて更に案内する。

11. 特定戦略タスクフォース担当 自己点検・評価報告

特定戦略タスクフォース担当の所管する事項	自己評価
(1) 自治体と連携し、地域課題の解決と人材育成を行う	A
(2) 大学と連携し、教育・研究における協力関係の推進	A

Plan	Do
(1) 包括連携協定を締結した長島町との相互協力を更に進めると同時に、他自治体との連携を踏まえた相互協力体制構築を進める。 (2) 長岡・豊橋技術科学大学と連携し、地域課題解決に向けた取り組みを強化する。	(1) 長島町との受託研究を継続して地域バイオマスの利用促進に関する事業を実施した。加えて令和4年4月に始良市と「連携協力に関する協定」が締結された。更に阿久根市との連携に関して自治体職員と協議した。 (2) COI NEXT事業、SHARE事業（長岡技大）などに参加した。豊橋技科大のサテライトオフィスを設置した。また大学教員が学内に常駐する体制を構築した。
Check	Action
(1) 長島町主催のイベントに学生と参加し、研究成果を地域住民に示し、交流を図り、自身が取り組んでいる研究が地域社会に役立っていることを学生に気づかせることができた。 (2) 地域バイオマスを用いた付加価値の高い食品開発に取り組み、成果を各種イベントで公開できた。遠隔操作により、他機関の機器利用が可能となり、研究効率が高まった。	(1) 令和5年度も長島町との事業を継続する。始良市については、大学と連携しつつ、地域課題抽出を図り、それを教育・研究へ活用する仕組みをつくる。 (2) 令和5年度も継続して実施する。大学と連携して教育・研究の高度化を目指す。

12. 機械工学科長 自己点検・評価報告

機械工学科の目標	自己評価
(1) ストレート卒業率 85% を目指して、学科教員担当科目の単位取得率を 90% とする (2) 令和5年度入学試験の目標として、入試倍率1.3倍以上、女子学生の入学者4名以上とする (3) 論文数を5本、学会発表数を10件、外部資金獲得数を10件とする	B A B
Plan	Do
(1-1) 1・2年生に対して、チューター制を利用して、学生の学習方法について、必要に応じて、アドバイスを行う。また、全学年の学生に対して、科目担当教員が単位取得率90%に向けて、学習の指導を行う。 (1-2) 個々の学生の目的に応じた自発的・継続的学習の取り組みとして、資格取得試験及びコンテストへの参加を推奨する。また、学生のキャリアアップのため、外部講師による講演会を開催する。 (2-1) 入試倍率の向上のため、機械工学科ウェブページ、バーチャルオープンキャンパス、広報誌の内容について充実を行う。 (2-2) 女子学生の入学者増のため、女子学生の協力を得て、女子学生の卒業した中学校への訪問・PR活動を行う。また、女子学生のケアのため、女性教員を中心とした指導・相談を行う。 (2-3) 学科PRおよび機械工学振興のため、公開講座を2つ以上、開設する。(3) 論文数を5本、学会発表数を10件、外部資金獲得数を10件とする。	(1-1) チューター制を利用して、学生の得意・不得意科目の把握を行い、学習方法について、適宜、アドバイスを行った。また、学科専門科目担当教員が単位取得率90%に向けて、学習の指導、必要に応じて、補講や再評価試験等の充実を行った。 (1-2) 危険物・ボイラー・CAD検定・システム安全アソシエイト、モビリティデザインコンテスト等について、学生に案内するとともに受験・応募を勧める。また、主に1年機械工学演習と4年特別学修において、外部講師による講話を行う。 (2-1) ウェブページ、バーチャルオープンキャンパス、広報誌へ情報を掲載する。 (2-2) 女子学生が卒業した中学校を自ら訪問してのPR活動を行う。また、女性教員を中心とした女子学生の指導・相談を行った。 (2-3) 公開講座の開設について、学科教員に呼びかけ、実施を促した。 (3) 研究活動の活性化のため、投稿論文、学会発表、外部資金の獲得について、学科教員に呼びかけた。
Check	Action
(1) 機械工学科教員の担当科目で、学生が90%以上の単位を修得の科目割合にて、目標達成率を評価した。学年: 90%修得達成率、原級留置(割合)として、1年: 100%、0/42名 (0%)、2年: 40%、8/42名(20%)、3年: 70%、7/49名 (19%)、4年: 83%、1/36名 (2%)、5年: 71%、0/47名 (0%)であった。また、ストレート卒業率85%の可能性について、1年生は100%であったが、2年生については、80%となり、達成できなかった。更に、安全資格試験を受検した8名全員が合格し、モビリティデザインコンテストに40名の応募があり、学生が自発的に取り組む様子がみられ、外部講師による講話を25件行ったことから項目(1)をBと判定する。 (2) ウェブ等によるPR活動、女子学生による出身中学校訪問を行い、女子学生のケアも行われた。また、入試倍率1.53倍であり、女子の新入生は1名であったが、3名の志願者がいたことから、項目(2)をAと判定する。 (3) 論文数0本(投稿中1本)、学会発表26件、外部資金14件であり、項目(3)をBと判定する。	(1-1) 魅力ある授業に努め、特に、2年生のケアに注力していく。単位未修得の科目については、早期の単位修得を目指し、教科担当、担任及び学科が連携して、学習指導を行う。成績不振や欠席の多い学生には、体調不良や心の悩み等を伴っている場合が多く、担任、科目担当、学科、学校、保護者、外部機関で情報を共有・連携し、早期から学習・生活指導を行う。提出物を出せない学生に対しては、授業で課題を行わせて提出させる等の工夫を行う。 (1-2) 資格試験やコンテストへの参加者や資格取得・入賞者の増を目指し、引き続き、学生への広報や支援を行っていく。また、将来の夢や見通しをもたせるため、キャリアアップ講座を継続する。 (2) 入試広報や学科PR活動を活性化する。女性教員のきめ細やかな目線による教育、学生指導、授業方法、進路指導、入試広報活動、職場環境等の改善にトライしてもらい、学科として活動の支援・協力・展開を行っていく。 (3) 研究活動の活性化のため、投稿論文、学会発表、外部資金の獲得について、学科教員に呼びかけていく。

13. 電気電子工学科長 自己点検・評価報告

電気電子工学科の目標		自己評価
(1) 留年(原級留置)・退学者(1～5年)を5人程度以下/年とする		S
(2) 女子学生の入学者を増やすため、学科の女子学生3名程度の出身中学校に教員と女子学生で学校、学科の説明に行く		S
Plan	Do	
(現状分析) (1) 過去4年間の電気電子工学科の留年・退学者(転学・休学を除く、1～5年)(平均8.5人/年)(過去4年間) R3年度:4人、R2年度:10人、R1年度:5人、H30年度:15人 (2) 電気電子工学科の女子学生の人数(平均4人/学年) 1年:4人、2年:3人、3年:4人、4年:6人、5年:3人 (計画) (1) 留年(原級留置)・退学者(1～5年)を5人程度以下/年とする (2) 女子学生の入学者を増やすため、学科の女子学生3名程度の出身中学校に教員と女子学生で学校、学科の説明に行く	(1) 成績不良学生への補講・再評価・再試験実施:当該科目に対する学生の理解度向上(単位未修得率大幅低減)(1、3、5年生の留年者無し)(令和4年度) (2) 女子学生5人(鹿児島市内5中学)を教員と学生が訪問して、学校、学科の説明実施	
Check	Action	
目標に対する結果: (1) 電気電子工学科の留年・退学者(1～5年)(転学・休学を除く)(令和4年度)⇒4人(目標達成) 1年:無し、2年:1人、3年:無し、4年:3人、5年:無し (2) 3名程度の女子学生の出身中学への訪問(計画)⇒5名(5校)の女子学生の出身中学への訪問(実施)(目標達成)(女子学生の合格者が4人(R4年度入)⇒6人(R5年度入)と増加)	(令和5年度実施予定内容) (1) 電気電子工学科の魅力を受験生(中学生)に伝える広報活動の充実化:①学科PRパンフレットの刷新、②女子学生のみならず男子学生も含めた出身中学校への訪問による説明会実施 (2) 継続して行う活動(学科教員):①チュータ制(1・2年生)、②SHR(1・2年生)(1回/週)、③成績不良学生への補講・再評価・再試験実施、④創造実習等実験の見学(低学年)、卒研発表の聴講(3・4年生)	

14. 電子制御工学科長 自己点検・評価報告

電子制御工学科の目標		自己評価
(1) 遠隔授業コンテンツの充実化としてオンデマンド用の授業教材は動画で作成する		A
(2) 科目の単位修得率向上対策を実施し、各科目において未修得者を1割以下にする		A
(3) 学科独自のSTEAM教育を導入する		A
Plan	Do	
(1) 遠隔授業コンテンツの充実化としてオンデマンドの授業教材は動画で作成する。 (2) 科目の補講、演習ややり直し試験を行い、各科目において未修得者を1割以下にする。 (3) レゴマインドストームを用いた小・中学生向け出前型STEAM教育講座の準備をし、実施する。	(1) 遠隔授業は、遠隔授業のガイドラインに沿って実施し、オンデマンド用の授業教材は動画で行った。 (2) 科目の補講(クラス全員または個人)や演習及び試験のやり直し試験を実施した。 (3) 令和4年12月8日に福山小学校、令和4年12月10日に安良小学校でSTEAM教育講座を実施した。	
Check	Action	
(1) アンケートを実施し、「遠隔授業のガイドライン」に沿って遠隔授業を実施したことを確認した。令和4年度の座学の遠隔授業を「遠隔授業のガイドライン」に沿って実施した教員:10名中10名。 (2) 専門科目の未修得率を調査し、37科目/41科目中で、未修得率が1割以下となっている。 (3) 講座実施後に児童へアンケートを実施し、受講者20名全員が楽しかったと回答していた。	(1) 令和5年度以降も遠隔授業では、学科教員全員が「遠隔授業実施のガイドライン」に沿って、オンデマンド(動画コンテンツの作成・活用)及びオンラインで実施する。 (2) 令和5年度は令和4年度の実績を超えて、各科目において未修得1割以下にする。 (3) STEAM教育支援室と連携を取りながら、令和5年度も継続して講座を実施する。	

15. 情報工学科長 自己点検・評価報告

情報工学科の目標	自己評価
(1) 情報工学科の留年者数を6人以下にする	A
(2) 論文を学科で5本以上投稿する	A
(3) 魅力ある公開講座のテーマを1件以上作成する	A
(4) 学科教員複数名による共同研究テーマを1件以上立案する	A
(5) 情報工学科としての外部資金獲得のための応募を1件以上する	A

Plan	Do
(1) 情報工学科の留年者数を6人以下 (2) 論文5本以上投稿 (3) 魅力ある公開講座のテーマ作成 (4) 学科教員複数名による共同研究テーマ立案 (5) 情報工学科としての外部資金獲得のための応募	(1) 学科会議、成績会議等で情報交換。2年生以上において前期中間試験前後期間の専門科目試験時間割作成。 (2) 論文投稿を意識した。 (3) 実施されている公開講座の内容を確認した。 (4) NPO法人と一般教育科1名並びに情報工学科2名計3名の教員での共同研究テーマを立ち上げた。 (5) (4)のテーマでトヨタ財団研究助成に応募した。
Check	Action
(1) 留年12名(1年は0名、2年は2名、3年は7名、4年は2名、5年は1名(精神的な病気2名、経済的理由2名、コロナ後遺症1名、進路変更1名、理由無5名))。目標達成 (2) 6本採択((フルペーパー3、国際会議発表6)ただし、国際会議発表1は0.5本とカウントした)。目標達成 (3) 令和5年度用公開講座1テーマを作成した。目標達成 (4) 共同研究のテーマ1件立ち上げた。目標達成 (5) (4)のテーマで応募した。目標達成	(1) 1年生の担任とのパイプ作り。病気が理由の場合は保健室と相談室、経済的理由の場合は相談室と更に連携を図る。 (2) 継続的に論文投稿、採録を目指す。 (3) 魅力あるテーマとなるように工夫する。 (4) 共同研究を更に進める。 (5) 外部資金獲得のために更に応募する。

16. 都市環境デザイン工学科長 自己点検・評価報告

都市環境デザイン工学科の目標		自己評価
(1) 学年を横断し多くの学生が設計、施工に広く関わることによって、より魅力的な校内環境の整備を目指す		A
(2) 学科の学生全体が関わる新たなPBLの形を模索し、今後の同様のPBLに向けたモデルケースとする		A
(3) 各種コンテスト・資格試験の指導と支援を継続的に行い、学生が自発的に参加する環境を醸成する		A
Plan	Do	
(1) 都市環境デザイン工学科棟の踊り場に学生が設計した作品の展示を行う。 (2) PBL教育を組み込んだ指導を行い、供試体作製を行い、鹿児島コンクリートコンテスト2022で成果を競う。 (3) 以前から行っているデザインコンテスト、技術士一次試験や各種コンテストを学生に周知させ積極的に参加を促す。	(1) 都市環境デザイン工学科棟の踊り場に学生が設計した作品を展示を行った。 (2) PBL教育を組み込んだ指導を行い、供試体作製を行い、鹿児島コンクリートコンテスト2022で成果を競った。 (3) 以前から行っているデザインコンテスト、技術士一次試験や各種コンテストを学生に周知し、積極的に参加した。	
Check	Action	
(1) 学生が設計した作品を展示を行ったことで、踊り場で立ち止まり作品に関して会話する光景が見られた。 (2) 7チーム(2年生から5年生の計25名)が参加し、ドラコン部門、ニアピン部門(高専・大学・大学院部門)の両方で優勝、準優勝、3位を獲得した。 (3) デザコン(構造デザイン部門)で54校中5位を獲得した。技術士一次試験を3年生から専攻科生が受験し、2桁の学生が合格した。	(1) 学生が設計した作品の展示頻度を多くし、踊り場の風景を変えることで、学生に気付きを与える空間を目指す。 (2) 令和5年度も令和4年度に実施した授業時間以外での学年縦断PBL教育を継続し、教員の負担を軽減できる学生主体の教育環境作りを目指す。 (3) 各種コンテスト・資格試験の指導と支援を継続し、新たなコンテスト・資格試験へチャレンジする支援体制(例えば、合格した学生からの指導など)の構築を目指す。	

17. 一般教育科長 自己点検・評価報告

一般教育科の目標		自己評価
一般教育科は、学生の生涯にわたって学び続けよりよく生きようとする力と、技術で世界を幸福にするための力を育てる。この理念を達成するための具体的な目標を、以下の“Plan”に示す。		B
Plan	Do	
(1) 学生が充実した学生生活を送れるように担任業務や授業を通じて学生の様子を見守り、問題を抱えている学生に対しては適切なケアを行う。 (2) 1年生の学科混合クラスの問題点等を把握し、令和5年度以降の改善につなげていく。 (3) 一般科の各科目において、最終評価が60点未満の学生を1割以下にする。 (4) 一般教育科の全教員が科研費の申請を行う。 (5) 一般教育科の各教員が、少なくとも1件以上の口頭発表もしくは論文投稿等の研究活動を行う。	(考えられる取り組みや活用できる制度) (1-1) 個別面談やLHRの充実(担任業務の一環として) (1-2) 元気が無かったり、遅刻したり、不衛生・不健康そうな学生はいないか、他の学生との関りがうまくいってなさそうな学生はいないか、等の確認(教科担当や部活の顧問として) (3-1) 授業アンケートを活用した授業改善 (3-2) やり直し試験、再試評価試験、再試験の積極的な実施 (3-3) 長期休暇での補講や遠隔授業ツールを活用した指導の充実	
Check	Action	
(1) 5段階評価で平均 3.4 と、まだできることがあると考えているが、可能な範囲で学生への対応を行った。 (2) 混合クラスについては良かったと考えているが、担任業務など様々な点で改善すべき指摘が得られた。 (3) 73%の教員が達成。成績の伸び悩みに苦慮している。 (4) 73%の教員が申請を行った。 (5) 55%の教員が発表等を行った。	(1) 教員単位ではできることや対応方法などに限りがある。一般教育科として連携して、教員相互の連携を高める。 (2) 提出された指摘を取りまとめて委員会等に提出する。 (3) 科目単位で教員同士の相互チェックを行ったり、各学年での学生の理解度を高めるための取り組みを行う。また、現在の学生に合った成績評価方法を検討する。 (4)(5) 教員相互で申請や発表についての声かけを行ったり、共同研究の促進などの取り組みを行う。	

18. 総務課長 自己点検・評価報告

総務課長の所管する事項	自己評価
(1) 人事に関する計画(教職員の資質向上)について (2) 自治体等との連携について (3) 施設及び設備に関する計画	A A A
Plan	Do
(1) 自ら考え、行動する機動的で協調的な未来志向の人材を育成するため事務職員・技術職員SDを企画する。 (2) 霧島市、日置市、始良市との連携事業を実施し、STEAM教育を推進する。 (3) 屋外運動場整備・普通教室棟等トイレ改修・厚生会館改修等の工事を実施する。	(1) 新たな学内外研修・スキル向上支援・フォローアップ支援プログラムを企画実施した。 (2) 霧島市とはニューライフカレッジ霧島「隼人学」、日置市とは「企業の魅力説明会」・「異業種交流懇話会総会」、始良市とは「AIRAふるさとチャレンジャー」等の事業で連携し、日置市1校、霧島市2校でSTEAM教育を実施した。 (3) 屋外運動場整備・普通教室棟等トイレ改修・厚生会館改修等の工事をスケジュールを管理し、関係者との連絡調整を円滑に行いつつ実施した。
Check	Action
(1) 本校独自の個人情報保護研修や事務部主催の教職員集会の開催、(株)Schoo等による学外研修、メンターによるフォローアップなど充実した研修を行うことができた。 (2) ニューライフカレッジ霧島「隼人学」は高く評価されて本校のPRとなった。その他の事業やSTEAM教育を通じて地域貢献・人材育成につながる取組ができた。 (3) 屋外運動場整備・普通教室棟等トイレ改修(女子トイレ増設)・厚生会館改修(女性交流スペース整備)等の実施により、本校の教育研究環境を改善できた。	(1) 受講者へのアンケートなどを基に研修内容の評価・改善を行っていく。 (2) 今後も継続して霧島市、日置市、始良市と協力し各事業を行い、地方創生・地域貢献につながる活動を行っていく。STEAM教育については県教育委員会を通じ、県内全域を視野に入れ、取り組みを進める。 (3) 今後も関係者との連絡調整を円滑に行い、適切な予算要求や安全着実な工事を実施していく。

19. 学生課長 自己点検・評価報告

学生課長の所管する事項	自己評価
(1) 入試における受験生の利便性向上 (2) 情報関係規程の見直し (3) 保護者対象の緊急時等連絡手段の確立	A A A
Plan (1) 受験生の利便性向上を図るため、WEB出願システムの導入及び最寄り地等受験制度に係る業務を円滑に実施する。 (2) 高専機構の情報関係規程改正に沿って、本校の関係規程を見直し、適切な改正を行う。 (3) メール配信システムによる緊急時等連絡手段の定着を図るとともに、操作性の向上に向けた改善を行う。	Do (1) WEB出願の概要を入学者募集要項に掲載、学校説明会にて周知を図った。関係高専との連絡を密に最寄り地等受験の実施方法等を相互確認、入試の準備を行った。 (2) 機構本部からのひな形や改正趣旨を踏まえつつ、実情に即した内容となるよう関係する規程の整理を行った。 (3) 新入生に対し登録案内を行い利用者増を図るとともに、休校(休講)や閉寮等の緊急時連絡に活用。操作性向上のためアプリを導入し、利用案内やQ&Aを作成した。
Check (1) WEB出願受付業務を遅滞なく処理するとともに、最寄り地等受験(本校志願1名、他高専志願5名)に適切に対応し、混乱や支障を生じることなく本科入試を円滑に実施した。 (2) 運営会議(令和4年12月7日)にて、サイバーセキュリティ管理、推進、教職員、利用者の4規程の廃止・新設が審議了承された。 (3) アプリ利用に関するアンケートを実施(登録863件のうち回答393件)、アプリ利用者85%、「良い点」延523件、「悪い点」延90件、各項目で80%前後の好評価を得た。	Action (1) 本科入試での経験を踏まえ、専攻科入試・編入学者選抜におけるWEB出願システム導入の可否について検討を行うとともに、最寄り地等受験制度の課題等を確認し、さらなる利便性の向上を図る。 (2) 整備された4規程に関連する実施手順等検討を行い、随時、策定を進めて令和5年度中の整備を目指す。 (3) 令和5年度新入生への登録案内・受付を実施。緊急時等連絡のほか、広報的な周知・案内や行事等での参加者への連絡等の活用を検討する。

20. 技術長 自己点検・評価報告

技術長の所管する事項	自己評価
(1) 学生の安全教育に関すること (2) 学内の安全衛生の管理に関すること (3) 職員の資質向上に関すること	A A A
Plan (1) 実験実習以外の活動等で実習工場を使用する学生向けの安全教育として、実習工場安全講習会を実施する。 (2) 有資格者による労働安全衛生管理上必要な機器等の点検や巡視等を実施し、学内の安全衛生の管理を行う。 (3) 職員の学外研修等の積極的な参加や、科学研究費(奨励研究)の全員申請を目指す。	Do (1) 実験実習以外で実習工場を使用する場合の学生向けの安全教育実習工場安全講習会を4回実施した。 (4月12日、5月6日、5月17日、11月7日) (2) 労働安全衛生法で定められた局所排気装置等の点検業務や、選任された衛生管理者による学内の巡視等による安全衛生の管理を行った。 (3) 職員の資質向上のために高専及び大学法人等の技術職員研修会等への積極的な参加、科学研究費(奨励研究)への組織的な取り組みにより全員申請を行った。
Check (1) 実習工場安全講習会を4回実施して、希望学生全員(132名)が受講した。 (2) 有資格者による局所排気装置等の法令点検の施した。また、選任された衛生管理者による学内の安全衛生に関する巡視内容等を実施し、安全衛生委員会で報告した。 (3) 実施された技術職員研修会等への参加が積極的に行われている。また、令和4年度の科研費(奨励研究)の採択件数(4件)は、全国高専の中で2位の採択件数であった。	Action (1) 希望学生全員が受講できるように複数の日程を調整して実習工場安全講習会を行う。 (2) 有資格者による労働安全衛生法上必要な機器等の点検や巡視等を実施し、学内の安全衛生の管理を行う。 (3) 令和5年度も職員の資質向上のために学内外研修等への積極的な参加、科研費(奨励研究)の計画的な準備を行い全員申請を目指す。

21. 校長による自己点検・評価総括

校長による自己点検評価総括

PDCAサイクルによる自己点検・評価については機能的に行われていると考えているため、令和4年度については、自己評価がBである項目について述べる。

- 留年・退学に関する問題は依然として大きい改善点の一つである。確かに、1年生の混合クラスの導入で1年生の欠点者の数は昨年の1/3になったが、2年と3年の留年・退学者は多い。
- 地域から愛される学校づくりは、正門横の花壇だけで評価されているが、今年度からSTEAM教育が展開でき、かなり成果が上がっていると思われる。
- 機械工学科は3項目のうち2項目で評価がBであり、来年度ぜひ数値目標を達成していただきたい。
- 一般教育科も全体として評価がBになっているが、それぞれの科目の目標等を掲げられることを期待したい。

全体的にさらなる改善を進めると同時に本校の強みを強化し、魅力ある鹿児島高専を実現していく。

Ⅱ. ミッションに基づいた 自己点検・評価報告

目次

(i) 本校のミッションと自己評価基準	31
(ii) 令和4年度のミッションに基づいた評価項目に対する自己点検・評価結果	32
1. 本校のミッションに関する取り組み	32
1.1 国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を養成すること	32
1.1.1 教育の質の保証	32
(a) 学位授与方針について	32
・カリキュラムポリシーの見直し（本科）	32
・社会状況、技術動向に応じた3つのポリシーの見直し（定期的見直し）	32
(b) 本科の教育について	32
・成績保管状況の把握	32
・成績評価の妥当性の把握	33
・試験問題のレベル、繰り返し問題チェックの把握	33
・学修単位の学修時間の把握	33
(c) 専攻科の教育について	33
・試験問題のレベル、繰り返し問題チェックの把握	33
・学修単位の学修時間の把握	34
1.1.2 教育の成果	34
(a) 本科の教育の成果について	34
・留年率、退学率の改善の方策（全国の平均を目安とする）	34
・入試倍率の把握（確保）	34
・本科生の学外研究発表の推進、状況の把握	35
1.1.3 グローバル教育（国際交流）	35
(a) 英語力向上の取り組みについて	35
・提携校との連携	35
・提携校との連携プログラムに参加した学生のTOEIC等の点数の把握	36
(b) 海外インターンシップについて	36
・提携校との連携プログラムに参加した学生のTOEIC等の点数の把握	36
1.1.4 学生支援	36
(a) 学生支援体制について①	36
・教育、生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し、改善するための体制の整備、 学習環境（含 ICT）の把握、留学生支援に対する把握、障害者支援に対する把握	36
(b) 学生支援体制について②	37
・キャリア支援プログラムの計画・実施、進路指導の全学的取組推進	37
・キャリア支援、進路指導状況の把握・ガイドライン等の策定	37
(c) 学生支援体制について③	38
・いじめ対策研修の実施	38
(d) 学生支援体制について④	38
・特色ある取り組みの推進と状況把握（各種コンテスト参加推進：SSD）	38
(e) 在校生学生アンケートについて	39

・ 在校生（４年生以下）に対するアンケート（学生の多様なニーズの把握）	39
(f) 卒業生（５年生）学生アンケートについて	39
・ 卒業生（５年生）に対するアンケート（達成度、満足度、授業改善要望）	39
1.2 開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的価値あるものを創出していくこと	39
1.2.1 教育の成果	39
(a) 専攻科の教育の成果について	39
・ 環境創造工学プロジェクトの取組、環境創造工学プロジェクトでの長島町関連取組の継続	39
・ 定員充足率、達成度の把握、満足度の把握、専攻科修了率の把握、学位取得率の把握、プログラム修了率等の把握	40
・ 専攻科生の学外研究発表の推進、状況の把握	40
1.2.2 研究	41
(a) 教員の研究業績について	41
・ 第５ブロックの共通目標達成のための取組	41
・ 特例適用教員数の向上	41
(b) 科研費と外部資金について	42
・ 科研費採択率向上	42
1.2.3 社会連携（企業との連携）	42
(a) 企業との連携について①	42
・ NEC との連携状況の把握	42
1.3 地域の産業、文化さらには生活を支えていく地域に根差した高専とすること	42
1.3.1 社会連携	42
(a) 自治体等との連携について	42
・ 教育における自治体との連携	42
・ 技術士会との共同教育	43
・ 霧島市、日置市、姶良市との連携	43
・ 委員等による自治体との連携	44
・ キャリア教育における自治体との連携	44
(b) 鹿児島高専テクノクラブ（KTC）について	44
・ KTC 企業見学状況等の KTC によるキャリア教育の実施状況、成果の把握	44
・ 共同研究実施状況の把握	45
・ KTC 事業実施状況の把握	45
(c) 企業との連携について②	46
・ 京セラ株式会社との連携	46
1.3.2 学生支援	46
(a) 学生支援体制について⑤	46
・ 地域に根差した特色ある取り組みの推進と状況把握（吹奏楽演奏訪問、メカトロ部小学校訪問、錦江スポーツクラブ、Robogals）	46
2. ミッション以外の取り組み	47
(a) 魅力ある鹿児島高専への取り組み	47

・ 鹿児島高専魅力向上プロジェクトチームの設置	47
(b) 各学科の PDCA 実施	47
・ 各学科の PDCA 実施状況の把握	47
3. 管理運営	48
(a) 教育組織について	48
・ 女性教員の増加のための取組、体制、組織、女性教員比率の把握	48
・ 女子学生の増加のための取組、女子学生の比率等の把握	48
(b) FD 研修、表彰、SD 等について	49
・ 教員相互の授業参観の改善	49
・ 教育力の質の向上のための研修等	49
・ 遠隔授業の質の向上のための研修等	49
・ 学生による授業アンケートの把握	49
・ FD フォーラム・FD レクチャーシリーズの開催	50
・ 新任教職員研修 (SD 関連)	50
・ ハラスメント防止 (SD 関連)	51
(c) 自己点検・評価	51
・ 教員による自己点検票の改定	51
・ 各規定の制定	51
・ PDCA に基づいた評価の必要性 (PDCA サイクルの再構築)	51
・ 企業に対する満足度調査の実施と調査結果の検証について	51
・ 1 年生への混合クラス、創作活動、工学基礎実習の導入状況の把握	52
4. 各外部評価の指摘事項の改善点	53
(a) 本校としての中期目標、長期目標を設定し、その目標に対する重点項目を明確にした 本校独自の自己点検・評価の実施	53
(b) 外部評価委員の事前質問の情報共有	53
(資料 1) 鹿児島高専における課題対応図	54

(i) 本校のミッションと自己評価基準

～ 本校のミッション ～

1. 国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を養成すること
2. 開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的価値あるものを創出していくこと
3. 地域の産業、文化さらには生活を支えていく地域に根差した高専とすること

＜自己評価基準＞

達成度と自己評価	評価基準
S：計画以上に進行している	「目標以上の成果が得られている」、または「目標以上の成果が得られる形で進んでいる」
A：計画通りに進行している	「目標通り 100%の成果が得られている（ほぼ目標通りの成果が得られている形を含む）」、または「目標通り 100%の成果が得られる形で進んでいる」
B：計画からやや遅れている	「目標には届かなかったが、概ね 70%以上の成果が得られている」、または「目標には届かないが、概ね 70%以上の成果が得られる形で進んでいる」
C：計画から遅れている	「目標の 50%以上 70%未満の成果にとどまっている」、または「目標の 50%以上 70%未満の成果となる形で進んでいる」
D：計画から大幅に遅れている	「目標の 50%未満の成果にとどまっている」、または「目標の 50%未満の成果となる形で進んでいる」

(ii) 令和4年度のミッションに基づいた評価項目に対する自己点検・評価結果

1. 本校のミッションに関する取り組み

1.1 国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を養成すること

1.1.1 教育の質の保証

(a) 学位授与方針について

番号	項目	内容
1	取組事項	カリキュラムポリシーの見直し（本科）
	P【計画】	令和2年度にディプロマポリシー（DP）を、令和3年度にカリキュラムポリシー（CP）を見直したので、令和4年度はアドミッションポリシー（AP）を見直す予定であるが、DP、CP見直しに係る学生への影響を確認しながら見直しを行う。
	D【行った活動】	授業アンケートの結果などを踏まえて改善を検討した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	APの見直しについて案を練っていたが、まだCPを見直したばかりのため、継続して学生に与える影響を注視の上、APの見直しを検討する。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後は更に半導体や起業の要素をどのように取り込んでいくかを含めて検討していく。
2	取組事項	社会状況、技術動向に応じた3つのポリシーの見直し（定期的見直し）
	P【計画】	本科と専攻科の3ポリシー（① AP、② DP、③ CP）については、必要に応じて見直しを行う。
	D【行った活動】	専攻科の3ポリシーの見直しについて検討し、令和4年度は九州大学との連携教育に係る変更を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	本科は高専機構における基本方針の見直しと変更、専攻科は大学改革支援・学位授与機構（機関別認証評価）の審査における指摘事項を受けて、本校の3ポリシーを変更すべきかどうかを検討、判断している。検討の結果、令和4年度は九州大学との連携教育に係る3ポリシーの追記のみを行った。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	3ポリシーの見直しは、今後も必要に応じて行う。

(b) 本科の教育について

番号	項目	内容
1	取組事項	成績保管状況の把握
	P【計画】	成績保管資料について、教員へは試験実施後2か月以内に指定フォルダへ保管するよう依頼する。令和3年度分の成績保管資料を令和4年度にチェックする。
	D【行った活動】	令和3年度分を令和4年5月にチェックを行い、6月に教務委員会で結果を確認した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和3年度成績保管資料をチェックした結果、全て問題ないことが確認された。 令和4年度成績保管資料についても、適切に保管する体制が取

		られている。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	教員として基本的な業務であるため、指導を含め、引き続き管理を強化していく。
2	取組事項	成績評価の妥当性の把握
	P【計画】	成績評価の妥当性について、シラバスの評価方法に基づき評価されているかどうかを教務委員会で確認する。
	D【行った活動】	教務委員会で令和3年度の確認対象科目を決定し、5月に各科の教務委員が確認を行った。確認結果については、6月の教務委員会で報告し情報を共有した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	成績保管資料を確認した結果、特に大きな問題点は確認されなかった。また、科目担当者へ確認（ヒアリング）した結果、特に大きな問題は確認されなかった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	教員として基本的な業務であるため、指導を含め、引き続き管理を強化していく。
3	取組事項	試験問題のレベル、繰り返し問題チェックの把握
	P【計画】	試験実施科目については、試験問題セルフチェックシートを提出させる。令和5年3月の教務委員会で1年分のセルフチェックシートを確認し、試験問題のレベルや難易度について確認する。
	D【行った活動】	中間試験及び定期試験後に試験問題セルフチェックシートを提出させた。また、従来は紙媒体で行っていたが、令和4年度からMicrosoft365のFormsを使用して実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	アンケートは適正に実施され、結果を教務委員会として把握できている。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	教員として基本的な業務であるため、指導を含め、引き続き管理を強化していく
4	取組事項	学修単位の学修時間の把握
	P【計画】	学修単位の学修時間の把握について、教務委員会等で議論を重ね、対応方針等について検討していく。
	D【行った活動】	教務委員会、教務主事・主事補会議で、学修単位の学修時間の把握等について検討を重ねた。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	学修時間の把握については、事前周知の方法で実施する予定であるが、具体的な実施方法について継続して検討中である。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	引き続き、教務委員会の検討課題とし、教務委員会で検討を重ねていく。

(c) 専攻科の教育について

番号	項目	内容
1	取組事項	試験問題のレベル、繰り返し問題チェックの把握
	P【計画】	試験実施科目については、試験問題セルフチェックシートを提出させる。令和5年3月の専攻科委員会で1年分のセルフチェ

		ックシートを確認し、試験問題のレベルや難易度について確認する。
	D【行った活動】	定期試験後に試験問題セルフチェックシートを提出させた。また、従来は紙媒体で行っていたが、令和4年度から Microsoft365 の Forms を使用して実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	アンケートは適正に実施され、結果を専攻科委員会として把握できている。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	教員として基本的な業務であるため、指導を含め、引き続き管理を強化していく。
2	取組事項	学修単位の学修時間の把握
	P【計画】	講義第1週目に自学自習チェックシートを配布し、定期試験終了後、回収、確認する。また、試験では、講義で教授した内容に加え、自学自習が必要な発展的な設問を設け、学修時間のエビデンスとする。
	D【行った活動】	令和3年度から、自学自習チェックシートを導入し、学修時間が不足している学生に対し、科目担当教員から指導を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	学生の自学自習の内容及び時間等を把握することができ、学生への指導へ活用させることができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降も、科目担当者がチェックシートを活用し、学生への指導に活用していく。

1.1.2 教育の成果

(a) 本科の教育の成果について

番号	項目	内容
1	取組事項	留年率、退学率の改善の方策（全国の平均を目安とする）
	P【計画】	前期終了科目で「不可」の科目については、全学的に早期の対応（再評価）を依頼する。再試験についても早い時期での実施を求める。
	D【行った活動】	前期終了科目で「不可」の科目について、全学的に早期（10月中）の対応（再評価）を依頼した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	比較的、再評価に積極的に対応する教員が増えてきている。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	留年対策に係る学生支援の在り方について、今後、入学する学生間の学力差が広がることを考慮し、教員が自ら授業力・対応力・人間力等を向上させることが、今後の課題と考えられる。
2	取組事項	入試倍率の把握（確保）
	P【計画】	入試広報プロジェクトチームを中心に入試広報活動を行っていく。また、入試広報活動の一環としてバーチャルオープンキャンパスを更に充実させる。
	D【行った活動】	鹿児島県内の中学校（71校）へ入試広報プロジェクトチームを

		派遣し、入試広報に係る PR 活動を行うことができた。 コロナの影響で中止となった一日体験入学の代替として、本校のホームページにバーチャルオープンキャンパスを開設した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	コロナ禍の影響で、限られた範囲での入試広報活動となったが、入試広報活動の Web 化を推進させることができた。 入試倍率は令和 4 年度入試よりも増加し、推薦入試の志願者数は過去最高を記録した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和 5 年度以降も引き続き、入試広報活動を推進していく。 また、女子学生の確保に力をいれていく。
3	取組事項	本科生の学外研究発表の推進、状況の把握
	P【計画】	令和 4 年度末に、本科生の学外発表の状況を各学科の教務委員が把握し、教務委員会に報告する。
	D【行った活動】	令和 5 年 3 月に各学科の教務委員が学外発表の状況を把握し、教務係へ報告する予定である。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和 5 年 3 月に把握するため、まだ成果は得られていない。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和 5 年度も同様に学外発表の推進、状況の把握を行う。

1.1.3 グローバル教育（国際交流）

(a) 英語力向上の取り組みについて

番号	項目	内容
1	取組事項	提携校との連携
	P【計画】	1) NTI スtockホルム校（スウェーデン）との対面式交流プログラムを実施する。 2) 高専生と国内外の大学生による国際セミナーを開催する。
	D【行った活動】	1) 令和 5 年 1 月 16 日から 24 日に NTI スtockホルム校との交流プログラムを学内にて実施した。PBL 学習、授業・実習への参加、科学館でのプログラム教室、エクスカッション、放課後を利用した学生間交流を行った。学生実行委員会を組織し、各種交流プログラムを行った。 2) JSTS2022（高専機構主催の国際セミナー）を鹿児島高専が主担当となって開催した。実施期間は令和 4 年 9 月 12 日から 16 日で、オンサイトとオンラインを組み合わせたハイブリッド形式とした。また学生運営委員会（JSOC）を組織した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	1) 交流プログラムに参加した学生の満足度は良好（全員が満足と回答）であった。今後の英語学習意欲向上やグローバルな活動への参加意欲向上にも効果的であった。 2) JSTS2022 の参加人数は、高専生 24 人（内、鹿児島高専 5 人）、長岡・豊橋技科大 9 人、海外の大学生 29 人であった。JSOC として鹿児島高専生 13 人が参加した。アンケートの結

		果、参加者の満足度は良好（94%が満足と回答）であった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	1) NTI スtockホルム校との国際交流について、受入だけでなく派遣も計画する。その他協定校とも対面式国際交流プログラムを計画する。
2	取組事項	提携校との連携プログラムに参加した学生の TOEIC 等の点数の把握
	P【計画】	1) 1～3 年生の全員を対象に Toeic-Bridge 試験を実施する。 2) 4 年生全員を対象に Toeic-IP 試験を実施する。
	D【行った活動】	外部講師による TOEIC 講座（オンライン形式）を実施した。 1～3 年生を対象に Toeic-Bridge 試験を実施した。 4 年生を対象に Toeic-IP 試験を実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	Toeic-Bridge 試験の結果【学年平均、プログラム参加者平均】として、1 年生【275 点、410 点】、2 年生【285 点、387 点】、3 年生【290 点、405 点】であった。 Toeic-IP 試験の結果、4 年生の学年平均とプログラム参加者平均は【340 点、656 点】であった。いずれの学年も、平均点はプログラム参加者の方が高得点であった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	オンライン形式の TOEIC 講座は参加者を増やすこととモチベーション維持が重要であり、開催時期や実施方法等を検討する。学内のグローバル機運醸成に資する国際交流プログラムを計画する。

(b) 海外インターンシップについて

番号	項目	内容
1	取組事項	提携校との連携プログラムに参加した学生の TOEIC 等の点数の把握
	P【計画】	海外インターンシップの実施を検討する。
	D【行った活動】	新型コロナウイルス拡大の影響で、海外インターンシップを実施できなかった。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	新型コロナウイルス拡大の影響で、海外インターンシップを実施できなかった。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和 5 年度の海外インターンシップ（企業、大学）の実施に向けて準備を行う。

1.1.4 学生支援

(a) 学生支援体制について①

番号	項目	内容
1	取組事項	教育、生活環境の状況や満足度等を学校として把握し、改善するための体制の整備、学習環境（含 ICT）の把握、留学生支援に対する状況把握、障害者支援に対する状況把握
	P【計画】	令和 3 年度に実施した満足度調査アンケートでの回答を参考に

		改善可能な点について検討するとともに、設問項目を検討した上で、令和4年度も満足度調査アンケートを実施する。
	D【行った活動】	令和3年度のアンケートの回答を基に、冷水器の設置や教室の配置変更等の改善を行うとともに、令和5年2月14日に全学生向けに満足度調査アンケートを実施し、回答を収集中である。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	教育、生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握することができ、得られた意見を基に改善できた事項もあった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和4年度の意見を基に、満足度の低かった事項、意見について把握し、令和5年度に改善すべき事項を関係各所でも共有する予定である。

(b) 学生支援体制について②

番号	項目	内容
1	取組事項	キャリア支援プログラムの計画・実施、進路指導の全学的取組推進
	P【計画】	キャリア支援室を中心に、学内のキャリア支援プログラムについて把握・整理し、キャリア支援プログラムの充実化を図る。また、本校のキャリア支援の在り方を検討する。
	D【行った活動】	各部署・各学科で計画しているキャリア支援プログラムと実績を取りまとめ、学内に周知した。また、キャリア支援室として、先輩講話、女子学生向けセミナー、学内合同企業セミナー、就職・進学に関するセミナーを複数回企画、実施した。令和3年度に引き続き、求人面談の対応手順について整理し、学生係、各科担任と共有した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	学内のキャリア支援の計画を把握し、新たなキャリア支援プログラムを複数回計画・実施することで、当初の想定以上にキャリア支援が充実化できた。学生等からの評価も非常に良いものであった。また、求人面談の対応手順も整理し、関係者とスムーズな情報共有ができています。
	自己評価	S：計画以上に進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	これまで行ってきたキャリア支援プログラムの実施状況を把握・整理し、入学時から卒業・卒業後までのキャリア支援の在り方を検討する。そして、新たなキャリア支援プログラムを計画・立案、キャリア支援プログラムの年間計画を作成し、学生へ周知していく。
2	取組事項	キャリア支援、進路指導状況の把握・ガイドライン等の策定
	P【計画】	キャリア支援、進路指導状況を把握し、必要に応じて、就職・進学指導ガイドラインの見直しを行い、学生、関係者に周知する。また、求人情報については、求人管理システムを導入し、全学科横断のシステムの運用を開始する
	D【行った活動】	就職・進学指導ガイドラインの見直しを行い、学生、関係者へ周知した。 求人管理システム導入の検討を行い、メディア総研が運営している高専キャリアサポートシステムを導入した。令和4年4月

		から高専キャリアサポートシステムの運用を開始し、企業へ求人・インターンシップ情報の入力依頼を行った。令和4年12月に4年生と専攻科1年生を登録し、本格運用を開始し、学科横断での求人票の確認が可能となった。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	就職・進学指導ガイドラインの見直し、計画通りに実施でき、学生へも周知できた。 高専キャリアサポートシステムについては、計画通り、順調に運用できており、学生が求人票を学外でも閲覧できるシステムを確立した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	必要に応じて、就職・進学指導ガイドラインの見直しを行い、学生、学内へ周知していく。 低学年次のキャリア支援の在り方を検討するにあたり、高専キャリアサポートシステムの低学年次からの登録・運用について検討していく。また、高専キャリアサポートシステムを活用したインターンシップの申込等運用の拡充が可能か検討を行う。

(c) 学生支援体制について③

番号	項目	内容
1	取組事項	いじめ対策研修の実施
	P【計画】	全学生に対するいじめ対策研修を令和4年4月に実施するとともに、教職員に対する研修を実施する。
	D【行った活動】	令和4年4月29日に全学生を対象に学生何でも相談室長が講話を行い、12月7日に教職員向けの研修会を学生何でも相談室長が行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和3年度とは異なり、本校のいじめ防止等基本計画を中心とした講話となっており、いじめの定義等、学生にとって理解を促す良い機会となった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度についても、継続して学生向けの講話、教職員向けの研修会を実施予定である。

(d) 学生支援体制について④

番号	項目	内容
1	取組事項	特色ある取り組みの推進と状況把握（各種コンテスト参加推進：SSD）
	P【計画】	鹿児島高専 Supporting Students Dreams (SSD) 事業を学生委員会で実施するため、申請要件等を定めるとともに、募集、採択、実施効果の検証等を実施する。
	D【行った活動】	令和4年4月と10月に申請案内を行い、審議の結果、令和3年度からの継続も含め、10件の活動を採択した。 採択した活動については、参加学生へのアンケートを実施し、今後、活動報告を提出してもらうことを予定している。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	募集から活動選定まで、当初の予定通りに遂行できた。 SSD事業によるコンテスト等での入賞実績等もあり、参加学生アンケートでも非常に評価及び満足度が高いことが示された。

	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度についても、継続して募集等を行う予定であり、採択件数が増え、活動が活発化することにより、活力ある学校を推進することができると考えている。

(e) 在校生学生アンケートについて

番号	項目	内容
1	取組事項	在校生（4年生以下）に対するアンケート（学生の多様なニーズの把握）
	P【計画】	令和3年度に実施した満足度調査アンケートでの回答を参考に、改善可能な点及び設問項目について検討するとともに、令和4年度も満足度調査アンケートにて学生のニーズについて調査を実施する。
	D【行った活動】	令和3年度のアンケート回答で記載のあったニーズを基に、教室配置の変更、冷水器の設置等を行うとともに、令和5年2月14日に全学生向けに満足度調査アンケートを実施し、回答を収集中である。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	学生のニーズを学校として把握することができ、得られた意見を基に改善できた事項もあった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和4年度に回答のあった学生のニーズを把握し、令和5年度改善すべき事項を学生委員会でも共有する予定である。

(f) 卒業生（5年生）学生アンケートについて

番号	項目	内容
1	取組事項	卒業生（5年生）に対するアンケート（達成度、満足度、授業改善要望）
	P【計画】	卒業生（5年生）に対するアンケート（達成度、満足度、授業改善要望）結果を分析し、今後の学校運営につなげていく。
	D【行った活動】	今回の卒業生アンケートについても、高専機構からの設問に本校の設問を追加して令和5年2月末までに実施する。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和3年度の結果を教務委員会で報告し、各学科に結果を共有した。令和4年度のアンケート結果は令和5年度に分析し、教務委員会で報告する。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降も引き続き、アンケート結果について教務委員会にて検討していく。

1.2 開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的価値あるものを創出していくこと

1.2.1 教育の成果

(a) 専攻科の教育の成果について

番号	項目	内容
1	取組事項	環境創造工学プロジェクトの取組、環境創造工学プロジェクトでの長島町関連取組の継続
	P【計画】	学生が分野を横断して複数のグループを作り、長島町の地域課

		題を抽出し、ものづくりを通して課題解決を目指す。 本取り組みは単年度で終わらせるのではなく、継続的に実施する。成果を長島町サテライトキャンパスで発表し、発表者と参加者で情報交換を行い、問題点の改善に努め、令和5年度につなげる。最終的にはパイロットスケール※¹⁾の試作品を作成する。また、題材を広げるため、長島町で実施している取り組みを別の市町村で実施できないか検討する。 ※¹⁾ パイロットスケール：工場を建てる一歩手前ぐらいの規模の設備をパイロットプラントということが多いが、そのパイロットプラントを使った実験をパイロットスケール実験と呼ぶことがある。
	D【行った活動】	令和3年度から引き続き、長島町での課題を抽出し実施した。また、令和5年度以降の環境創造工学プロジェクトの取組方法等を検討した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和5年度以降、課題抽出の幅を広げるため、他の市町村や、近隣小中学校への教材作成を対象とすることとした。学外での活動時間を確保するため、令和5年度の授業実施方法を、通年科目2コマから半期4コマに変更することを専攻科委員会で決定した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	長島町での取り組みは継続して行う。令和5年度以降は、協定自治体（日置市、霧島市、始良市）を中心に、他の自治体での課題抽出及び、近隣小中学校での教材作成を計画している。
2	取組事項	定員充足率、達成度の把握、満足度の把握、専攻科修了率の把握、学位取得率の把握、プログラム修了率等の把握
	P【計画】	令和4年度も同様に定員充足率、達成度の把握、満足度の把握、専攻科修了率の把握、学位取得率の把握、プログラム修了率等を把握する。必要に応じて分析も行っていく。
	D【行った活動】	専攻科委員会で各項目データを整理し状況を報告した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	専攻科委員会で各項目データを整理し状況を把握した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度も同様に定員充足率、達成度の把握、満足度の把握、専攻科修了率の把握、学位取得率の把握、プログラム修了率等を把握する。必要に応じて分析も行っていく。
3	取組事項	専攻科生の学外研究発表の推進、状況の把握
	P【計画】	教員へ外部資金の獲得を促すと共に、学生の学外発表を推奨する。
	D【行った活動】	例年、学内でやっている特別研究進捗状況発表を、本校が開催校であったため、高専学会で行うことを原則とした。学生の学外研究発表数等の把握を各専攻で行うこととし、令和5年3月の専攻科委員会で報告する。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	修了予定学生全員が、学外研究発表を行った。

	理由】	
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	教員へ外部資金の獲得を促すとともに、学生の学外発表を推奨する。

1.2.2 研究

(a) 教員の研究業績について

番号	項目	内容
1	取組事項	第5ブロックの共通目標達成のための取組
	P【計画】	第5ブロックの共通目標について、学内で共通理解を深めていく。 共通目標：①専門系：査読付き論文2編以上 一般系：論文2編以上・著書1冊以上 ②外部資金：過去3年分の実績額（平均）の110% 及び科研費採択率前年度比3%増
	D【行った活動】	第5ブロックの共通目標について、学内で周知を行い、高専機構等の研究力アップに関するイベントについては、積極的な参加を呼びかけた。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	以前に比べ、学内の共通理解が深まってきており、教員の参加者も増加してきている。令和3年度の論文数は23件（延べ数）であった。因みに、イベントへ参加する教員は、比較的研究力の高い教員であり、同じ顔ぶれとなっている。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	第5ブロックの共通目標達成者数をチェックし、目標未達成者については、今後3年間の研究計画書（論文投稿計画書）の提出を求める。また、高専機構主催の研究力強化プログラムへの積極的な参加を継続して呼びかける。
2	取組事項	特例適用教員数の向上
	P【計画】	申請時にヒアリングを行い、書類の記入方法（業績の見せ方など）について指導する。 また、筆頭著者、責任著者としての論文執筆を増やすよう指導を行う。
	D【行った活動】	特例適用教員の申請時に、研究主事及び研究主事補でヒアリングを実施し、申請者たちの意思を尊重しながら、申請書類の記入方法について、6名にアドバイス・指導を行った。 令和5年度入学生から、九州大学との連携教育プログラムにおける連携教員としての参加を積極的に呼びかけた。連携教員となることで、指導実績、研究実績の積み増しが見込まれる。 また、特例適用教員を未承認の教員3名に対し、研究力強化プログラムへの参加を促した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	申請した6名中、5名が承認された。そのうち、新規2名が研究力強化プログラムへ参加した教員であった。
	自己評価	A：計画通りに進行している

	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降も継続的にヒアリングを行っていく。また、未承認の若手教員に対し、研究力強化プログラムを案内する。 令和5年度以降は、未承認の若手教員の指導実績を積むため、積極的に指導補助教員として登録することを呼びかける。
--	---------------------------	---

(b) 科研費と外部資金について

番号	項目	内容
1	取組事項	科研費採択率向上
	P【計画】	科学研究費助成事業の応募及び採択率を向上させるために、プロジェクトチームを設置する。
	D【行った活動】	採択率を向上させるためにプロジェクトチームによる査読を行い、教職員に対して適切な指導・助言等の支援を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和4年度科研費の採択件数は5件であった。令和5年度科研費への申請件数は66件で、前年度より9件増加した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降もプロジェクトチームによる査読を行い、申請書をブラッシュアップし、採択率の向上を行いたい。

1.2.3 社会連携（企業との連携）

(a) 企業との連携について①

番号	項目	内容
1	取組事項	NEC との連携状況の把握
	P【計画】	NEC との連携でウェアラブル端末を活用した授業評価の実証実験を実施する。
	D【行った活動】	前期は本科2年生、後期は本科1年生でウェアラブル端末を活用した授業評価の実証実験を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	概ね予定していた計画案件については実施できた。また、当初、計画していなかった案件についても、NEC と連携し実施することができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降も引き続き、NEC との連携を推進していく。

1.3 地域の産業、文化さらには生活を支えていく地域に根差した高専とすること

1.3.1 社会連携

(a) 自治体等との連携について

番号	項目	内容
1	取組事項	教育における自治体との連携
	P【計画】	令和5年度から始まるリベラルアーツⅠのテーマの一つを霧島市との連携で実施するため、その準備を行う。
	D【行った活動】	霧島市 DX 推進課と令和5年度のリベラルアーツⅠの授業計画について検討を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和5年度の開講科目のため、まだ成果はない。

	理由】	
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後も自治体との連携教育について検討していく。
2	取組事項	技術士会との共同教育
	P【計画】	鹿児島県技術士会と本校との共同教育を全学科で実施する。
	D【行った活動】	令和4年12月下旬から令和5年2月上旬にかけて、鹿児島県技術士会から講師を招き、技術士会との共同教育を実施した。 ○科目名 ・E科：電気電子工学実験Ⅴ、S科：特別講座、I科：卒業研究、C科：工学セミナー
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	鹿児島県技術士会との関係は良好で、技術士会との共同教育は10年以上継続して実施してきたが、機械分野の技術士の確保することができず、機械工学科では実施できなかった。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	技術士の確保が困難なため、令和5年度以降はこの取り組みは実施せず、別の形での連携を深めていく。
3	取組事項	霧島市、日置市、始良市との連携
	P【計画】	霧島市教育委員会（志学館大学含む）と連携し、生涯学習講座ニューライフカレッジ霧島「隼人学」を開催する。 日置市の主催で例年開催される「企業の魅力説明会」、「異業種交流懇話会総会」等に参加する。 始良市主催の「AIRA ふるさとチャレンジャー」において、理系教育講座の開催を担当する。
	D【行った活動】	ニューライフカレッジ霧島「隼人学」はコロナ禍の状況ではあったが、全10回の講座を行った。（令和4年5月14日、6月11日、7月9日、8月20日、9月10日、10月8日、11月12日、12月10日、令和5年1月14日、2月11日） 日置市主催で開催される日置市企業の魅力説明会（6月28日）に参加した。 AIRA ふるさとチャレンジャーの「工学チャレンジ！」（9月17日）として、小学生24名を受け入れ、4つの講座を開催した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	ニューライフカレッジ霧島「隼人学」は高等教育機関と自治体が連携して開催する全国でも例を見ない取組であり、優れた運営と学習成果が地域の活性化に寄与すると評価され、全国市民大学連合から優良市民大学として認定されている。本校の教員も講師として登壇し、鹿児島高専のPRにもつながった。 日置市主催の各事業へ参加し、日置市の学校及び企業関係者等と意見交換を行うことで、日置市の将来ビジョンや日置市地域の企業が抱える課題等について情報収集することができた。 始良市教育委員会と連携して小学生への理系教育を行い、地域貢献・人材育成につながる取り組みができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後も継続して霧島市、日置市、始良市と協力し、各事業を行

	題（改善）への方針】	い、地方創生・地域貢献につながる活動を行っていく。
4	取組事項	委員等による自治体との連携
	P【計画】	各自治体主催の委員会に委員として参加する。
	D【行った活動】	各種外部会議等に委員として参加した。 ・霧島市ふるさと創生有識者会議 ・鹿児島県工業技術センター研究開発推進会議 ・かごしま産業支援センター新事業進出支援事業審査会 等
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	各種委員会・会議に参加して、自治体（地域）の活性化を推進する施策・取組に対する助言や、県内企業に対する技術支援等のアドバイスをを行った。本校の学識的な知見を提供するとともに、地方自治体や県内企業が抱える課題解決に向けた取り組み等について理解することができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後も継続して各外部委員会・会議に参加し、「地域に根差した鹿児島高専」としての活動を継続していく。
5	取組事項	キャリア教育における自治体との連携
	P【計画】	地方創生特別講義として、霧島市・日置市・始良市に、2年生に対して特別講義の実施を依頼する。
	D【行った活動】	地方創生特別講義として以下のとおり実施した。 ・令和4年11月16日 霧島市、日置市、始良市（対象：本科2年生）
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	感染症対策に十分配慮して対面形式で講演を実施した。地方創生に向けた霧島市・日置市・始良市独自の取り組みや、OBからのアドバイス等についての講演を聴くことにより、学生からは「将来、自分が地方にどれだけ貢献できるかということに関して深く考えさせられた。」等の意見が寄せられ、有意義な特別講演となった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降もそれぞれの場面に柔軟に対応しながら継続して事業を実施する。また、アンケート結果を踏まえて、令和5年度の実施に向けて事業内容等の改善を図る。

(b) 鹿児島高専テクノクラブ（KTC）について

番号	項目	内容
1	取組事項	KTC 企業見学状況等の KTC によるキャリア教育の実施状況、成果の把握
	P【計画】	KTC 企業によるキャリア教育として、3 年生を対象に KTC 企業を訪問する企業見学、1 年生を対象に KTC 企業による特別講義を行う。また、3 年生、4 年生、専攻科 1 年生を対象に、感染症対策に十分配慮して地域企業研究会を行う。成果についてはともに実施後のアンケートを行う予定である。
	D【行った活動】	KTC 企業による「地域企業特別講義」「地域企業研究会」を以下のとおり実施した。 ・地域企業見学 令和4年11月2日（3年生）

		・地域企業特別講義 令和4年11月30日（1年生） ・地域企業研究会 令和4年12月7日（3年生と4年生、専攻科1年生） ともに終了後はアンケートの実施・集計を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	地域企業見学は、3年ぶりの実施となり、感染症対策に十分配慮して各企業・現場に訪問する形式で実施し、地域企業特別講義についても、感染症対策に十分配慮して対面形式で実施した。企業の現場の様子や地域企業について知る機会となり、学生にとって学びのモチベーションを高めるきっかけとなった。また、業界の動向・本校OBの業務内容やアドバイスを聴くことにより将来のキャリアについて考える機会となった。 地域企業研究会は、最大限の感染症対策を講じて対面形式で行うことができ、令和4年度より3年生の希望者も対象として実施し、早い段階から地域企業について知る機会を提供できた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	コロナ禍の状況を踏まえて柔軟に対応しながら、継続して事業を実施する。また、アンケート結果について分析し、令和5年度の実施に向けて事業内容等の改善を図る。
2	取組事項	共同研究実施状況の把握
	P【計画】	新規の共同研究契約があった際には、令和3年度より継続して、企画係にて一覧を作成し、校務連にて報告する。
	D【行った活動】	共同研究について一覧を作成し、校務連で報告を行っている。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	共同研究の受入れ実績について、毎月の校務連で報告を行うことができた。これにより、外部資金等の状況を確認することができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度も継続して、共同研究一覧を作成し、校務連にて報告を行う。
3	取組事項	KTC 事業実施状況の把握
	P【計画】	KTC 事業に関する年間計画を検討する。事業の実施方法等についてはKTC 三役に相談し、テクノセンタースタッフ会議にて実質的協議を行う。
	D【行った活動】	令和4年4月28日、7月28日、12月15日、令和5年2月27日にKTC 会長、副会長と実施事業について会議を行った。各事業の実施方法についてテクノセンタースタッフ会議を行い、令和5年2月末時点で27回開催している。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	KTC の各事業については、その都度、会長、副会長及びテクノセンタースタッフで協議し、会長・副会長の意向を汲みながら、コロナ禍の状況に対応して事業を実施することができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	Web を活用した実績を活かし、令和5年度以降もコロナ禍の状況を踏まえて柔軟に対応しながら継続して事業を実施する。また、アンケート結果について分析し、令和5年度の実施に向け

		て事業内容等の改善を図る。
--	--	---------------

(c) 企業との連携について②

番号	項目	内容
1	取組事項	京セラ株式会社との連携
	P【計画】	京セラ株式会社（国分工場）との共同教育のため協定を締結する。
	D【行った活動】	令和4年10月19日に、京セラ（国分工場）と連携協力に関する協定を締結した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	京セラ（国分工場）の協定を締結し、今後の連携について議論を進めている。
	自己評価	A：計画通りに進行している。
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度には、具体的な協力による企画を1つ実施する。

1.3.2 学生支援

(a) 学生支援体制について⑤

番号	項目	内容
1	取組事項	地域に根差した特色ある取り組みの推進と状況把握（吹奏楽演奏訪問、メカトロ部小学校訪問、錦江スポーツクラブ、Robogals）
	P【計画】	地域に根差した特色ある取り組みの推進を行うため、課外活動の支援を行う。
	D【行った活動】	メカトロニクス研究部が鹿児島市立科学館における公開講座を実施し、令和5年2月28日、3月1日に富隈小学校、令和5年3月2日に横川小学校を訪問し、ロボットを活用した実演等を行った。 吹奏楽部が令和5年3月10日に垂水市の保育園、姶良市の保育園にて演奏訪問を行った。 錦江スポーツクラブへの学生の参画については、新型コロナウイルス感染症の影響で中断する期間が多く、例年に比べ活動実績が少なかった。 サイバーセキュリティボランティアとして、本校学生が令和4年6月13日に隼人中学校、令和5年3月13日に国分中学校、日当山中学校と近隣の中学校で活動を行い、令和4年9月9日に和泊小学校、10日に大城小学校、内城小学校と離島の小学校で活動を行った。活動に係る支援は後援会と調整して行った。学生主事を中心として、正門前の真孝公民館花壇の整備を地域住民と一緒に実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動時期を調整しながら地域に根差した取り組みが多く行うことができた。
	自己評価	B：計画からやや遅れている
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後も学生主事を中心として、学生を活用した地域貢献について検討していくとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で複数年実施できていない活動に対し、支援を行っていきたい。

2. ミッション以外の取り組み

(a) 魅力ある鹿児島高専への取り組み

番号	項目	内容
1	取組事項	鹿児島高専魅力向上プロジェクトチームの設置
	P【計画】	寄附金に関するガイドラインの提案、寄付金を用いた事業の展開及び基金の設立等の提案を行う。
	D【行った活動】	寄附金に関するガイドラインを提案し、運営会議で了承を得て、制定した。寄附金に関するガイドラインに基づいて、厚生会館 1F、2F の魅力化のための改修を決定した。国際交流基金への充当を行った。学生活動支援基金の設立を提案し、運営会議で了承を得た。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	寄附金を用いた鹿児島高専魅力化に取り組むことができた。特に、厚生会館 1F、2F の改修は鹿児島高専の魅力スポットの 1 つとなることが期待できる。また、国際交流、学生活動支援のそれぞれの基金は、今後の鹿児島高専の学生にとって有用と考える。
	自己評価	A：計画通りに進んでいる
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	鹿児島高専魅力向上プロジェクトチームの任期は、厚生会館 1F の改修が終了する令和 5 年 9 月までとなっている。今後は、それぞれの基金を運用する部署において有効な活用を行っていく。

(b) 各学科の PDCA 実施

番号	項目	内容
1	取組事項	各学科の PDCA 実施状況の把握
	P【計画】	令和 3 年度から引き続き、各科・学科についても PDCA を実施することで、各科・学科での目標の共有化、協働を促進し、教育での発展的な活動を行う。
	D【行った活動】	各科・学科の PDCA を作成し、総務企画委員会にて報告された。計画に基づき、各科・学科で取り組む。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	自己点検・評価委員会にて、各科・学科の PDCA 実施状況を点検・評価し、報告を行った。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和 5 年度以降も各科・学科の PDCA を実施する。

3. 管理運営

(a) 教育組織について

番号	項目	内容
1	取組事項	女性教員の増加のための取組、体制、組織、女性教員比率の把握
	P【計画】	女性教員比率（令和4年5月1日現在） 機構全体：（機構ホームページ未掲載）％ 本 校：5.7％ 機構全体の比率を目標値とし、引き続き教員の公募文にポジティブアクション※2）を記載し、女性教員の増加を目指す。 ※2）ポジティブアクション：積極的格差是正措置。男女間の差別を解消して、働く意欲と能力のある女性が活躍できるように、企業が自主的に行う取り組みのこと。
	D【行った活動】	令和4年度に行った教員公募において、公募文にポジティブアクションを記載して公募した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和4年度の9件の教員公募において、計6名の応募者中、女性応募者は1名であったが採用には至らなかった。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	今後も引き続きポジティブアクションを記載し、女性教員の増加を目指す。
2	取組事項	女子学生の増加のための取組、女子学生の比率等の把握
	P【計画】	・志願倍率（女子生徒）の増加に向けた取り組みを行う。 ・女子更衣室の準備を進める。 ・Robogals 鹿児島島の学生による小中学生対象のワークショップを行い、理工系を目指す女子を増やす取り組みを行う。
	D【行った活動】	・女子学生向けの施設等に関する満足度調査アンケートを実施した。 ・夏季に少年自然の家、令和4年12月10日に大崎小学校でワークショップを実施した。また、令和5年3月25日に垂水中央中学校でワークショップを実施する予定である。 ・厚生会館2Fに女子学生の交流スペースを整備した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	女子更衣室の整備については、徐々に設備が整ってきている状況であり、当初の計画は概ね達成できた。今後は、アンケートの女子学生の意見を考慮し、更なる改善につなげていきたい。
	自己評価	A：計画通りに進行している。
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	アンケート結果を考慮し、ソフト、ハード両面から継続して女子更衣室の整備を進める。 引き続き、女子小中学生を対象としたワークショップを実施する。また、コロナ禍でも実施可能なワークショップの内容を模索する。特に、離島や僻地などの受験者数が少ない地域の訪問を検討する。

(b) FD 研修、表彰、SD 等について

番号	項目	内容
1	取組事項	教員相互の授業参観の改善
	P【計画】	公開授業（教員相互による授業参観）を前期と後期にそれぞれ実施し、教員の授業力向上並びに教員相互の交流を深める。
	D【行った活動】	令和4年6月21日～7月11日と同10月31日～11月18日の日程で公開授業を実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	前期と後期を合わせた参加率（1回以上の参観）は89.9%で、令和3年度の参加率89.7%と同程度であった。 実施担当者（総務企画主事補）より、各教員に「公開授業アンケート」によるフィードバックを行った。また、公開授業参観者は、授業実施者に対して「公開授業メモ」を渡した。
	自己評価	A：計画通りに進行している。
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度も、公開授業を前期と後期に実施する予定である。参観後の「公開授業アンケート」が形式的になっているきらいがあるため、質的側面を重視し、アンケートの修正を検討する。
2	取組事項	教育力の質の向上のための研修等
	P【計画】	教育力の質の向上のための研修を計画し、実施する。
	D【行った活動】	鹿児島高専FDレクチャーシリーズ（中堅セミナー、ニューフェイスセミナー）及び授業力アップアクティビティを実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	教育力の質の向上のための研修が計画され実施されている。
	自己評価	A：計画通りに進行している。
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度においても同様に継続して実施していく。
3	取組事項	遠隔授業の質の向上のための研修等
	P【計画】	遠隔授業のガイドラインを周知する。鹿児島高専FD・SDフォーラムで遠隔授業の紹介を行う。
	D【行った活動】	令和4年7月21日に教務主事から、遠隔授業ガイドラインの再案内をメールで行った。遠隔授業期間を通して学生からの苦情に対応した。第4回鹿児島高専FD・SDフォーラムにおいて、「私の遠隔授業」というテーマで、3名の教員が講演した。また、教務主事、総務企画主事から遠隔授業ツールの案内等を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	遠隔授業ガイドラインの再周知、遠隔授業の紹介、遠隔授業ツールの案内等、複数の取り組みが行われた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降は、遠隔授業の実施の機会が少ないと予測される。年1回、総務企画委員会から遠隔授業のガイドラインについての周知を行う。
4	取組事項	学生による授業アンケートの把握
	P【計画】	授業アンケートを実施し、今後の授業改善へつなげる。
	D【行った活動】	授業アンケートを実施し、その分析結果を教務委員会で報告

		し、今後の授業改善へつなげている。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	学校指定のアンケート以外でも同様の手法を用いて、各教員が独自に授業に関するアンケートを実施し、改善に結び付ける動きがみられた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度以降も引き続き、授業改善に向けた取り組みを行っていく。
5	取組事項	FD フォーラム・FD レクチャーシリーズの開催
	P【計画】	鹿児島高専 FD フォーラム、鹿児島高専 FD レクチャーシリーズを実施し、教育能力の向上及び知識の共有を図る。
	D【行った活動】	【鹿児島高専 FD フォーラム】 (1) Well-being を志向する鹿児島高専のカリキュラム (2) 校長裁量経費を頂いた先生方の研究の取り組みの紹介と質疑応答 (3) 情報漏洩防止に関する講演（経済安全保障関連） (4) 私の遠隔授業 (5) Well-being を志向した鹿児島高専独自の教育の在り方及び魅力ある鹿児島高専づくり、重点6項目の紹介 (6) いじめ防止に関する研修会 (7) 教職協働のための相互理解（事務主体） (8) 理系になぜ女性が少ないのか 【鹿児島高専 FD レクチャーシリーズ】 (1) オンライン英会話講座 (2) 中堅セミナー (3) オンライン英会話講座 (4) ニューフェイスセミナー (5) 新担任研修
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	鹿児島高専 FD フォーラム、鹿児島高専 FD レクチャーシリーズともに充実した内容での実施がなされている。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度も充実した鹿児島高専 FD フォーラム、鹿児島高専 FD レクチャーシリーズを計画して実施する。
6	取組事項	新任教職員研修（SD 関連）
	P【計画】	新任教職員研修実施要領に基づいて研修を実施し、職務遂行に必要な基礎知識等を理解し、資質の向上を図る。
	D【行った活動】	校長、教務主事、総務企画主事、学生主事、寮務主事、研究主事・専攻科長、国際交流センター長、地域共同テクノセンター長が、所管する内容について、5回にわたり研修を実施する。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和4年度新任教職員研修実施要領に基づいて適切な新任教職員研修会が実施されている。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度についても同様に実施する。
7	取組事項	ハラスメント防止（SD 関連）

	P【計画】	ハラスメント防止に関する研修を実施する。
	D【行った活動】	令和4年11月24日（木）から令和4年12月19日（月）の期間で、ハラスメント防止に関する動画研修を実施した。また、令和4年12月19日に再案内を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	パワーハラスメントを含むハラスメントの防止対策をさらに促進するため、ハラスメントに対する関心と理解を深めることができた。 ・常勤教職員の受講率は、93.8% ・非常勤職員・再雇用教職員を含めた受講率は、88.8%
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度もハラスメント防止に関する研修等、必要な研修を実施する。併せて、受講率の向上を図る。

(c) 自己点検・評価

番号	項目	内容
1	取組事項	各規定の制定
	P【計画】	令和3年度に各種アンケートの実施について、実施部署、実施期間等を定めた通り、各種アンケート等を実施する。
	D【行った活動】	卒業生アンケート、在校生満足度アンケート、企業アンケートを実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	卒業生アンケートは教務委員会、在校生満足度アンケートは学生委員会、企業アンケートは総務企画委員会が実施し、アンケート結果を各委員会において報告した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度は、卒業生アンケート、在校生満足度アンケートを実施する。
2	取組事項	PDCAに基づいた評価の必要性（PDCAサイクルの再構築）
	P【計画】	自己点検・評価報告書をPDCAの項目で記載して、各部署、各評価項目のPDCAサイクル実施状況を確認する。特に、自己点検・評価委員会機能の強化し、各部署の責任者によるブリーフィングを行い、PDCAサイクルの実施状況を確認、共有する。
	D【行った活動】	科・学科も含めて各部署においてPDCAを実施し、自己点検・評価委員会にてPDCAサイクルの実施状況を確認した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	各部署からの自己点検・評価報告書の内容でPDCAサイクルの実施状況を確認し、自己点検・評価委員会において実施状況の認識の共有を図った。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度もPDCAサイクルの実施、確認を行う。
3	取組事項	企業に対する満足度調査の実施と調査結果の検証について
	P【計画】	令和4年度に企業に対する満足度調査を実施し、調査結果を総務企画委員会にて報告する。
	D【行った活動】	令和3年度に求人があった企業に対して、令和5年2月末を締切りとし、満足度調査を行った。142件の回答を得た。調査結果を分析し、総務企画委員会にて報告した。

	C【得られた成果及び自己評価の理由】	計画通り、令和4年度に企業に対する満足度調査を実施することができた。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	次回は、令和7年度に満足度調査を実施し、結果を教育改善等に役立てていく。
4	取組事項	1年生への混合クラス、創作活動、工学基礎実習の導入状況の把握
	P【計画】	令和5年度に、1年生混合クラス、創作活動、工学基礎実習についてのアンケートを2年生に対して実施する。創作活動、工学基礎実習については主担当学科を決定し、各担当教員の連携を取り、実施する。
	D【行った活動】	創作活動、工学基礎実習については主担当学科を決定し、各担当教員の連携を取り、実施した。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	創作活動、工学基礎実習については主担当学科を決定し、各担当教員の連携を取り、実施した。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和5年度に2年生へ混合クラスのアンケートを実施し、創作活動、工学基礎実習の改善点等を把握する。

4. 各外部評価の指摘事項の改善点

(a) 本校としての中期目標、長期目標を設定し、その目標に対する重点項目を明確にした本校独自の自己点検・評価の実施

番号	項目	内容
1	P【計画】	別紙資料（資料1）に示す通りとなる。
	D【行った活動】	個別の活動については、自己点検・評価報告書の各項目を参照。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	令和4年度からは混合クラスを導入し、新たな形での教育を開始した。また、令和4年度入学者からは新カリキュラムとなっており、新しい形式での教育を開始している。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	変化を続けて、学生・教職員ともに成長できる取り組みを継続する。1学科制を導入し、同時に、地域の特色となる教育機関として成長する。

(b) 外部評価委員の事前質問の情報共有

番号	項目	内容
1	P【計画】	次回の外部評価委員会（令和6年6月ごろ開催予定）では、事前に委員の方々へ、質問事項等の共有を図る。具体的な共用方法としては、Microsoft365のTeamsを利用し、外部評価委員のチームを作成し、そこへ質問事項を投稿して頂くこと等を検討する。
	D【行った活動】	実施方法の検討を行った。
	C【得られた成果及び自己評価の理由】	実施方法の検討を行った。特に問題はないと考える。
	自己評価	A：計画通りに進行している
	A【継続する取り組みと今後の課題（改善）への方針】	令和4、5年度分の外部評価委員会を実施する際にTeamsを利用した事前質問の情報共有を行う。

鹿児島高専における課題対応図

